

水虫とまぎらわしい病気

一見水虫と見えるものの中に、写真に示したような水虫とまぎらわしい疾患もあります。



掌蹠膿疱症

手のひらや土踏まずに膿疱や落屑を形成します。細菌アレルギーや金属アレルギーがその原因ではないかと考えられている疾患です。



汗疱状湿疹

夏期に増悪する手足にできやすい。ぶつぶつと小さな水疱が集まった状態で、落屑や亀裂も生じます。



接触皮膚炎

水虫の薬を塗りかぶれを起こした症例です。

水虫の外用剤は、かぶれをおこすこともあります。また湿疹と湿疹の薬(ステロイド外用薬など)

を塗っていると、水虫やタムシは悪化します。
「なんだろう?」と思ったとき、こじれる前や、こじれてしまった場合、一度皮膚科を受診していただければと思います。

そのほか
詳細をお知りになりたい方は

日本皮膚科学会のホームページ

<http://www.dermatol.or.jp>

にいろいろな皮膚病のQ & Aがあり、水虫の項を見ていただくと参考になります。

3 タイプの水虫の症状

1 趾間型

足の指の間や根元の皮膚がめくれれたり、湿ってじくじくしたりするタイプ。



2 小水疱型

2から3ミリの小水疱が散在し、痒みを伴う。つぶれてじくじくしたり、環状に皮がめくれ、周りに発赤を伴うことがある。



3 角質増殖型

足の裏がかさかさになり、皮が厚くなったりする。自覚症状に乏しいことが多い。



爪白癬

爪先の下の方から白濁はじまり、あつくもろい爪になります。



水虫を予防するには、日頃から足を清潔に保ち、蒸れないように乾燥を心がけてください。お風呂のお湯で感染することはまずありませんが、床に落ちたり、マットや履き物に残った白癬菌は感染を起こす可能性がありますので、部屋の清掃も行いましょう。
白癬菌は一般に皮膚や爪以外には感染しませんが、その感染により外部からバリアとなっていて皮膚を浸軟させて、細菌感染を引き起こしやすくなります。ですから水虫だからといって治療を怠ると重症化することがあります。
特に糖尿病や免疫機能の低下した状態の方は管理が重要ですので、日頃の管理をしっかり行ってください。